

「秋のオーディオ・コンサート」は大盛會

十月六日(土)午後アビスタ大ホールにて「われら、自作派」と銘打ち、LPから最新オーディオ迄会員自作の機器で再生披露した。会員は音楽鑑賞派から自作派まで幅広い。今回は自作会員に特化して制作した装置で共通のSPを鳴らし、音の個性を聴き比べながら音楽を楽しむ試みである。

一番手は石井会員。12B4AのOTLモノラルアンプでCDを聴く。曲はザ・ビートルズ、ピンクレディー、松田聖子ありでどこか懐かしい音。止められない半田鏡人人生を漫談で語る。会場は笑いで和やかな雰囲気包まれる。

二番手は石井会員。30年の永きに亘り改造を重ねているトランジスタプリメイン。LPは自ら設計・製作したイコライザーアンプに改造を加えたCDプレーヤー。女性ボーカルはじめポピュラーからクラシックまで流石に高品位な音で最後の運命のLPでは期せずして拍手が沸いた。

三番手は宇多会員。オリジナルの超三結アンプに今回のデモ用に急遽製作したEL34PPモノアンプ二台。熟達の手つきでアンプ交換して音質を比較、お蔭で違いが良く判る。ジャズ、フュージョンからパツパを演奏、音楽つくりから音つくり迄幅広い語りで魅了した。

最後は石田会員。ルビジュームを用いたCDトランスポート、DAC、OTLアンプ迄全て自作。途中水晶クロックを比較の為鳴らしたが、その違いは歴然とし素晴らしい。締め括りに前回のフラムenco生録を再生、迫真的で盛り上がる。

会員30名の他来場者も30名を超え、四時間の長丁場を最後まで全員が熱心に聴いて頂いたのは驚きである。使用した装置には質問者が群がり、次が始まるアナウンスがその都度必要だった。

場内にはそのほかの自作製品の真空管アンプ、蓄音機、カーボンアクセサリーの他、会員の出版物数点などを展示。パネルにはAAFCコンサート史、会報抜粋、専門誌掲載ページを掲示、多くの方が熱心に見入っていた。

「オーディオファンは未だ健在なり」発表者を初め我がAAFC会員の底力を感じた一日であった。

脇田 隆夫

『オーディオと私』

私は子供のころ音楽が大嫌い、音楽の成績がよさそうな子をつかまえては「おい、こら」と小突きまわしたり、申し訳ないことをしたものです。高校生の頃、NHKのクラシック番組に興味が出て、とても長時間聴けるものではないませんでした。ところが学生のころ、ある人がレコードを、別の人がプレーヤーを貸してくれました。聴いた音楽は何とも素晴らしい。チャイコフスキー「交響曲第五番」でした。有名な大番でなく、五番です。NHKラジオのわけ知り顔の解説者連中と合わなかっただけ。以後自分でプレーヤーとレコードを買い、毎日何か聴くようになりました。会社員になってからは毎月レコードを数枚買うようになりました。ある日親友が結婚することになり、花嫁が私を知っているというのです。私がレコードを買いに行くヤマハのお嬢さんでした。

◆ 初めてオーディオ機器を買った

一九七二年春、初めていわゆるオーディオ機器を買いました。当時木造二階建てのしもた屋敷であった秋葉原テレオンで、デュアルのレコードプレーヤー、トリオの総合アンプ(という言葉があった)、セレクションのスピーカーデイトン15、総額約二〇万円と記憶しています。いずれも丈夫で長持ち、名器です。ところが半年後に海外転勤となり、帰国まで五年間倉庫へ預けることになりました。このうちもつとも気に入ったのはスピーカーで、その後東シナ海往復、太平洋往復などにより、外見は満身創痍ですが、音は出ます。

私は機器にはうるさくはないのですが、

気になるのはスピーカーです。一九八〇年代香港勤務の記念に、買って帰ろうと思ったのですが、その頃はタンノイとクオードくらいしかありませんでした。たまたまタンノイRHRが売り出し中で、いいなあ、ほしいなあと思ったのですが、高大重の三要素でやめ、安いグリニッジを買って大失敗、安物買いの銭失いでした。

◆ 我孫子オーディオクラブ設立に参画

一九九五年に故井上さん主導でクラブ発足、現在に至っています。今の環境は洋室二階九畳ほぼ正方形、天井高は南側(スピーカー側)3.6M北側2.2M、事務所兼書斎で、大型の机や椅子、各種資料類などで雑然としております。現在の使用機器は、CDプレーヤーがソニーとマランツ、アンプがアキュフェーズ、スピーカーはタンノイアーデン2です。スピーカーはボイスコイル、ダンパー、コーン紙、エッジを当初のスペックのものに取り換えています。さほど不満なく使っていますが、先年の地震で落ちてきた額縁のガラスで、箱に少々かすり傷がついてしまいました。もちろん音には問題はありませ

◆ よく聴く音楽

若いころはクラシックなら何でも、あえて言えばマーラーとブラームスをよく聴きました。我が家に絶対にならないのは、オペラと日本の歌謡曲です。四〇代半ばからパツパをよく聴くようになりました。無伴奏チェロ組曲は西洋音楽の最高峰、これを聴かないと一日が終わりません。誰の演奏でも立派なものばかりですが、私の好みはフルニエです。パツパなら何でも大好き人間ですが、宗教曲は多少敬遠。またどうしたことか「フーガの技法」だけはどうもなじみず、どうしてだろうと永年不思議でした。ある時、演奏家を変えたらと思ひ、他の演奏家を聴いたら、やはり素晴らしい。最近ソコロフをよく聴いています。

◆ オーディオの将来

聴くのはほとんどがクラシックですが、インドネシアの民族音楽も聴きます。私は四力国、通算一五年海外勤務をしておりますが、任地の音楽で聴くのは、インドネシアの音楽だけです。アメリカの音楽は合いません。インドネシア音楽ではガムランが有名で、その双壁はバリとジャワですが、ガムランだけがインドネシアの音楽ではなく、各地方に色々な民族音楽が存在します。ただ聴いてすぐいいなと思うのではなく、いいなと思うには相当の忍耐と時間が必要です。ある程度我慢しながら聴かないと、その良さがわかりません。

渡辺 肇幸

